

平成27年度 第1回米子市社会教育委員の会 概要

日時 平成27年7月2日(木) 午前10時～11時50分

場所 米子市立図書館2階 研修室3・4

出席者

【委員(順不同)】

ト蔵 久子委員(会長)、小谷 幸久委員(副会長)、野村 洋文委員、
黒安 達彦委員、湯浅 厚子委員、内田 信義委員、安達 博志委員、
松本 寿栄子委員、早原 彰子委員、實近 孝子委員、松原 郁子委員、
相見 貴代子委員、角 力委員(欠席:妹尾 多紀一委員)

【事務局】

永見教育委員会事務局次長兼生涯学習課課長、高橋人権政策監兼人権政策課長、
岡文化課課長、福田体育課長、安田浩行教育委員会事務局主査兼生涯学習課
青少年係長、安田至人生涯学習課長補佐兼生涯学習係長、橋本生涯学習課主任
兼社会教育主事

傍聴者 3名

会に先だち、今回新たに就任された黒安委員へ委嘱状を交付。

また、今年度に入り委員二名が辞職願を提出し、教育委員会で受理したことを報告。

1 開会

2 会長あいさつ

ト蔵久子会長あいさつ

新副会長を委員の互選により選出。小谷委員に決定。

3 説明

(1)平成27年度社会教育施策について

事務局から説明

【以下質疑応答】

《ト蔵会長》

ただいまの各課からの説明につきまして、委員のみなさんから質問等はございますか。
説明と同様、生涯学習課、文化課、体育課、人権政策課、男女共同参画推進課の順で進
めたいと思いますので、まず生涯学習課についていかがですか。

生涯学習課への質問及び回答

《湯浅委員》

26年度を振り返っての成果と反省点などあれば、かいつまんで教えてください。もうひとつ、青少年の健全育成には力を入れておられるところですが、子ども会活動への支援として、何か具体的にやっておられることがあればお聞かせください。

《永見生涯学習課課長》

生涯学習課の事業は普遍的な事業といえると思います。今までもこれからも、継続して市民の課題解決に向けた活動を支援していきます。そのなかで、人生大学は50周年をむかえました。この講座は、以前は高齢者向けの講座でしたが、今はもっと幅広い層を対象として開催しています。参加者がだんだんと減少していますが、その理由については、公民館大学や民間の講座など、市民の方が他の方法で学習を深めているのでは、と前向きに考えています。とはいえ、やはり参加者の増加に向けて努力するつもりです。また、家庭教育については、生涯学習課だけの努力でどうなるというものではありませんが、学校、地域とも協力しながら、対応する考えです。

1月には成人式を行いました。雪でご迷惑おかけしました。会場は例年の米子コンベンションセンターが改修中のため使えず、米子産業体育館でした。色々そこちらの想定を超えた事態が発生しましたが、これらを今後の糧にして、より良い式にしていきたいと思います。

《安田生涯学習課青少年係長》

子ども会活動への支援についてです。子ども会連合会の事務局を生涯学習課で担当しています。また、ジュニアリーダーズクラブに属する中学生や高校生が、各地域の子ども会活動を支援する際に、当課が連絡調整などを行っており、その事務をとおして子ども会活動に協力しています。

《早原委員》

色々話題になっている米子市立図書館の状況について、また市としてはどのような理由でどうしたいと考えているのかお聞きしたいです。

《永見生涯学習課課長》

市と図書館の関係は、当初から市の直営、図書館サービスについては委託、という直営一部運営委託という状態でした。市から館長を置き、運営に関しては文化財団に委託していますが、委託契約であるため、館長と職員が属する機関が異なります。原則、館長から職員へ直接指示できない、という問題がありました。そのなかで、スムーズな連携をとれますか、という問いかけがあったところから、運営についての再検証を行っています。

近隣自治体を調べても、様々な形態での運営方法があります。現在、その例を図書館協議会委員の方々へ示しているところであり、決して市として特定の方向へ進めようとしているわけではありません。今後の方針は協議会での検討の結果として出されるものだと考えていますので、色々な結論が想定されますが、今の時点でこう進めるべきだと考

えています、というものはありません。

《早原委員》

とてもよく分かりました。ただ、かつて市と当時の教育文化事業団の連携がうまくとれていなかった時期もありました。この先どのような運営体制になるか分かりませんが、図書館サービスの質を維持することを考えて進めてください。

《ト蔵会長》

今事務局から説明がありました。色々な場面で色々な話が出ていて、驚くこともありますが、市民にとって一番の方法を検討してほしいと思います。

《松本委員》

市のブックスタート事業について、図書館利用者がボランティアとしてもっと参加できるように、図書館でもPRしてほしいです。そうすることで、多くの市民が子育て支援に関わることができると思います。

児童文化センターのプラネタリウムですが、子どもばかりでなく、妊婦さんを対象とした企画や、夜間投影など、色々な企画があっても素晴らしいです、ただ、回数が少ないので、もう少し増やしてもらいたいです。

質問ですが、青少年の健全育成について、何となく青少年というと小中学校の児童生徒が対象のような印象を受けますが、高校生や専門学校生を対象とした取り組みは行われていますか。

《永見生涯学習課長》

生涯学習課では、青少年とは未成年者のことを指していますので、高校生や専門学校生も対象としています。

《小谷副会長》

児童文化センターのプラネタリウムについてです。かなり施設が老朽化しています。今年度予算としてシングル屋根などの改修に予算が計上されています。色々な事情があると思いますが、ぜひ本腰を入れて改修なり、更新なりを検討してほしいと思います。

《永見生涯学習課長》

児童文化センターは設立から30年以上が経過しています。かつてプラネタリウム建設ブームがあり、全国各地で造られたのですが、いずれも古くなり、施設利用を止めているところもあります。当課としてはこれからも続けていきたいと思いますが、その具体的な方法はこれから考えていきたいと思っています。

《ト蔵会長》

今のお話しのとおり、プラネタリウムはかなり老朽化しています。ただ、その時々運営スタッフが地道に修繕し、現在に至っているという状況です。なかなか難しいかもしれませんが、改修についてぜひ検討いただきたいと思っています。

《角委員》

資料の「児童文化センターの活動充実」という項目のなかに、「...子どもをめぐる環境の変化に対応した子育て支援...」という記述がありますが、この「環境の変化」とは何を意味しているのですか。

《安田生涯学習課青少年係長》

児童文化センターは、設立当初は主に小学生を対象とする科学館という位置づけで始まりましたが、学校でのカリキュラム変更などもあり、しだいに小学生の利用が少なくなりました。そのかわりに、もっと小さな子どもへと対象がシフトし、いわゆる子育て支援事業に取り組んでいます。このことを環境の変化と表現しています。

《松本委員》

児童文化センターは、幼児への絵本読み聞かせなどとても人気があります。湊山公園や中海に囲まれ、環境もよく、子育て世代に最適です。教育委員会としてもっとPRすべきだと思います。

文化課への質問及び回答

《安達委員》

米子城跡整備事業のなかでの、湊山球場の位置づけを確認したいと思います。

《岡文化課長》

ご存知のとおり、米子城跡の範囲には球場が含まれています。そのなかの一部には借地部分もあります。これらの部分は現在、国史跡から外れていますので、今の整備計画としては、球場全体及び深浦と呼ばれる部分を国史跡として追加指定し、そのなかの借地部分は市が取得するという方針です。

《安達委員》

そのような方向性が既にでている、ということですか。新聞などでは鳥取大学医学部への支援策として、球場を提供して施設充実を、という話題もありましたが。

《岡文化課長》

この事業方針は、平成23年6月議会の市政概要のなかで市長が既に打ち出しており、平成25年度から基礎的な調査を実施し、27・28年度で「保存活用計画」を作る、という段階までできています。鳥取大学医学部への支援が必要ではないか、という意見もありますが、必ずしも球場を提供するのが支援ではないので、他の方法での支援策というものもあるのではないかと考えます。

《ト蔵会長》

該当地内にある民間施設は現在地から立ち退くことになると思いますが、代替地の取り扱いはどうなりますか。

《岡文化課長》

それに関しては、事業主の将来の営業計画による部分もあるので、補償については調整を図りながら検討していきます。

《湯浅委員》

合併10周年記念事業として旧淀江町誌編さん事業の説明がありましたが、米子市80周年誌の作成が遅くなっている件についておたずねします。

《岡文化課長》

旧淀江町誌に関しては、旧町の町誌なので、今手がけないと編さんの機会が失われてしまうものだと思いますので、当時の記録を残すために当課で作成するものですが、米子市の周年誌については、総務部門か企画部門など、別の部署で対応することになると思います。

《早原委員》

指定管理者制度が導入されている施設がいくつかあると思います。文化課だけに限ったことではありませんし、指定管理者だから、というわけでもないでしょうが、窓口対応に難点がある印象を受ける場面があるようです。職員の適切な配置をお願いします。

体育課への質問及び回答

《松本委員》

学校体育施設の活用に関する質問です。放課後、子どもの遊び場がないといわれていますが、小中学校のグラウンドは放課後子どもに開放しているものですか。

《福田体育課長》

体育課では、体育館やグラウンドを地域住民団体が予め調整を行ったうえで利用する、という学校体育施設開放事業を行っています。質問の主旨は、例えば放課後子どもさんが一人でグラウンドにやってきて、スポーツ少年団などが活動していないときに遊ぶことができるか、ということだと思いますが、それは各学校での判断と思われま

《野村委員》

そのような場合に子どもが遊ぶのは、何ら問題はないと思います。ただし、放課後、いわゆる学校の管理外ですので、何かあった場合には保護者さんの責任になります。放課後のグラウンド利用については、各学校によって取り組み方法は異なりますし、保護者への周知についても、学校によって差があるかもしれません。正式な学校体育施設開放事業によって団体利用されている時間は、当然ながら子どもは使えないこととなります。

《早原委員》

平成27年度当初予算の説明で、市民レガッタ用ナックル艇購入予算が計上されていますが、市民レガッタは、イベントとしてどの程度盛り上がっているものですか。

《福田体育課長》

実施状況をお伝えします。毎年約100クルーが出場しており、当日の参加人数は観客の方も含めて600人程度です。県外からの参加者もあり、実行委員会の努力の成果だと思います。体育課としても、毎年充実した大会になっていると思っています。

《相見委員》

新しくナックル艇を購入される、ということですが、古い艇はどのような利活用を考えておられますか。

《福田体育課長》

30年前に整備した木艇で、これ以上補修もできず、部品取りとしても再利用できない状態ですので、廃棄処分とする予定です。

《松原委員》

これも平成27年度当初予算の説明のなかで、どらドラパーク米子陸上競技場改修事業についての説明がありました。事業内容として、2種公認更新のための整備、とありましたが、この2種とはどのようなものですか。

《福田体育課長》

日本陸上競技連盟公認の陸上競技場には、第1種から4種までの区分があり、そのなかの第2種ということです。この区分によって開催できる大会の規模が異なり、第1種なら全国大会や国際大会、第2種なら中国大会なら実施可能なレベルです。

人権政策課への質問及び回答

《早原委員》

人権教育に係る人材バンクの活用状況についてお聞かせください。

《高橋人権政策監》

過去に作成したデータが古くなっていますので、再登録を広く呼びかけているところです。この人材バンクの目的は、学校などで行われる人権教育、社会教育のサポートをしてもらう、というものですので、必要な時に力を貸してもらえれば、という考えで設置しています。

《早原委員》

以前、その人材バンクに登録していましたが、何の依頼もありませんでした。せっかく豊富な人材がおられることと思いますので、ぜひもっと活用していく方向でがんばってほしいです。

男女共同参画推進課への質問及び回答

《早原委員》

以前の会でも質問させてもらっていますが、男女共同参画センターが今の場所にある意味を再度確認したいと思います。毎年1,000万円以上委託料を支払って、何かメリットがあるのでしょうか。そのお金を使うべき他の事業があるのではないのでしょうか。他に適切な場所があるのではないのでしょうか。今後そのあり方について考えてもらいたいです。

《高橋人権政策監》

市としても、この件は重大な課題と考えています。ただ、平成26年度で約8,300人が利用と、利用者数は年々増えている状況にあります。ある意味では便利な場所にある、といえるのではないかと思います。

《早原委員》

必要な施設とは思いますが、毎年それだけの費用がかかるとは思っていませんでしたので、ぜひ今後のあり方について検討してください。

《卜蔵会長》

本日もたくさんご質問いただきました。みなさん、ありがとうございました。
以上で終了いたします。

4 その他

事務局からの連絡事項

文部科学省作成の社会教育委員向けパンフレット及び第37回全国公民館研究集会 in 鳥取について紹介

5 閉会